

第5回カラーガード関西大会 審査内容

全体的効果

創造的で独創的なプログラム構成と幅広い表現と質に注目し、あらゆるデザインの効果を判断する。

作品の効果

- ・コーディネーション
 - 明確なプログラムコンセプトが打ち出されているか。
 - 作品の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。
 - また、無理のない流れがあるか。
 - インパクトポイントとクライマックスが表現されているか。
 - 観客にうまく伝えられる工夫がなされているか。
 - 手具、コスチューム、小道具、セット（プロップ等）が効果的に使用されているか。
 - 作品の意図を理解し、カラーコーディネートがされているか。
- ・視覚と音楽の調和
 - 視覚効果と音楽が調和されているか。
 - 音楽に作品のムード（雰囲気）と意味合いが反映しているか。
- ・独創性と多様性
 - 作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。
 - フラッグ、衣装、その他（手具やプロップ等）のデザインとカラーコーディネートの独創性と多様性があるか。

作品の解釈と表現

- ・表現の幅と質
 - 作品が意図するところを理解し、強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅があるか。
 - また、それらを高めようとしているか。
 - 演技者がそれぞれの役割や個性（キャラクター）を理解し、表現出来ているか。
- ・ショーマンシップ
 - 観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。
- ・完成度
 - 内容を把握し、ミスやエラーのない演技になっているか。

アンサンブル

演技の構成や全体的な技術がいかにより優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

構成（フォーム、ボディ、手具）

- ・統一性
視覚的構成がいかによりまとまっているか。
- ・視覚的音楽性（フレージング、解釈、強調）
視覚的構成がいかにより音楽的であるか。
- ・表現力
視覚的表現がいかにより豊かであるか。
- ・多様性
視覚的構成がいかにより多様であるか。

演技の質と技術

- ・同一性
同じ動作がいかにより同じようにできているか。
- ・全般的技術
全般的な動作の技術がいかにより優れているか。
- ・アーティキュレーション
動作のアーティキュレーションがいかにより揃っているか。
- ・鮮明度
動作がいかによりはっきり明らかであるか。
- ・リカバリー
リカバリーがいかにより早い。

手具の技術

手具を使つての表現形式がいかにかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションにおいて理解度と達成度を踏まえて判断する。

表現形式（手具の動作に関して）

- バリエティー
手具を使つての表現方法がいかにかに多様であるか。
- ダイナミックス
強弱をつけた変化があるか。
テンポの取り方やウエイトのかけかた、奥行きと高低差、流れの変化などを使っているか。
マルチパネルワーク（平面だけでなく斜めの角度や横などのあらゆる角度で演技が構成されているか）を試みているか。
- コンビネーション
手具、ボディーワーク、ステージング（ドリル）がいかにかに噛み合っているか。
- 適正
テクニックが個人のスキルにマッチしているか。
表現力が個人のスキルにマッチしているか。

理解度と達成度（手具を操作する上での）

- トレーニング
練習（トレーニング）、努力が感じられるか。
操作方法とテクニックを習得する上で、身体的、精神的発達が見受けられるか。
スタイルがいかにかに統一されているか。練習成果がみられるか。集中力を持続できているか。
- コントロール
ブレスの使い方が出来ているか。体の各部所の使い方を熟知しているか。
テンポの取り方やウエイトのかけかた、奥行きと高低差、流れの変化などを理解しているか。
手具の動き方を理解し、ウエイトとエネルギーを使い、役立てているか。
- 融合
手具とボディーワークが融合できているか。
- リカバリー
リカバリーがいかにかに早い。
- タイミング
テンポとタイミングは一致しているか。

ボディーワークの技術

ボディーワークを使つての表現形式がいかかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションにおいて理解度と達成度を踏まえて判断する。

表現形式

- バラエティー
体を使つての表現方法がいかかに多様であるか。
- ダイナミックス
強弱をつけた変化があるか。
テンポの取り方やウエイトのかけかた、奥行きと高低差、流れの変化などを使っているか。
マルチパネルワーク（平面だけでなく斜めの角度や横などのあらゆる角度で演技が構成されているか）を試みているか。
- コンビネーション
ボディーワーク、手具、ステージング（ドリル）がいかかに噛み合っているか。
- 適正
テクニックが個人のスキルにマッチしているか。
表現力が個人のスキルにマッチしているか。

理解度と達成度

- トレーニング
練習（トレーニング）、努力が感じられるか。操作方法とテクニックを習得する上で、身体的、精神的発達が見受けられるか。
スタイルがいかかに統一されているか。練習成果がみられるか。
集中力を持続できているか。
- ポジション
ボディーラインとポジションは安定しているか。
- コントロール
センタリング、バランス、体重の力を使った体のあらゆる部分の関連を理解しているか。ブレスの使い方が出来ているか。
体の各部所の使い方を熟知しているか。テンポの取り方やウエイトのかけかた、奥行きと高低差、流れの変化などを理解しているか。
手具の動き方を理解し、ウエイトとエネルギーを使い、役立てているか。
- 融合
ボディーワークと手具が融合できているか。
- リカバリー
リカバリーがいかかに早い。
- タイミング
テンポとタイミングは一致しているか。